群教セ	G01 - 02
	平24.246集

自分の思いを書く力を高める国語科指導の工夫

── 図表や写真を用い、立場を変えて書く活動を取り入れて ──

長期研修員　　加藤　寿生

《研究の概要》

本研究は、小学校国語科「書くこと」の指導において、図表や写真を用い、立場を変えて書く活動を取り入れることを通して、自分の思いを書く力を高めることを目指したものである。具体的には、新聞形式を用い、一つのテーマについて、用紙の右側に自分の思いとは異なる立場から書いたのち、左側に自分の立場から書く。相互の立場で書いた作品を交流することによって深まった自分の思いを、もう一度端的に書く活動を行った。

キーワード　【国語ー小　書くこと　思い　図表や写真　立場を変える】

Ⅰ　主題設定の理由

学習指導要領（小学校国語科）では、様々な場面における言語活動を具体的に示している。平成24年度群馬県学校教育の指針（国語）では、単元を貫く言語活動を設定し、意見や考えを交流することを通して言葉で伝え合う力を高める授業を行うことを重点として取り上げている。

PISA調査では、記述式問題が重視され、出題の約四割を占めている。国際社会の中で生きていくには他国と議論を重ねて合意を形成し、課題を解決していかなければならない。このような能力を身に付けるための素地として、まず「自分の思いをもち、書ける」ことが大切である。学習指導要領〔第５学年及び第６学年〕の内容「Ｂ書くこと」の指導事項でも「エ　引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」と示している。

しかし昨今、各種調査等での記述式問題において、児童生徒の無回答率の高さが話題になっている。平成22年度全国学力・学習状況調査（国語Ｂ）では「資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること」に課題が見られた。

協力校においても、学年が上がるにつれ、調べて分かったことや自分の思いを模造紙や画用紙、ノートなどにまとめる活動が多くなる。その際、自分で調べた本やWebページから文章、図表や写真などを引用して書く場面がある。ところが現状を見ると、丸写しするケースが多く、自分の思いを記述した部分は少ない。これでは「資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること」についての意識は、質的にも量的にも十分とはいえない。これは、情報を深く理解し、分類・整理し、相手や目的に応じて再構成する力が十分ではないことが原因と考える。

そこで、本研究では、自分の思いを書く力を高めるために、図表や写真を用い、立場を変えて書く活動を取り入れることにした。同じ事実でも、図表や写真の用い方によって、いろいろな受け取り方ができる。与えられた情報を熟考し、図表や写真を用い、立場を変えて書くことによって、自分が今まで気付かなかった視点を得ることができる。同時に、読み手によりよく伝えるための図表や写真の活用の仕方や、図表や写真を根拠にした文章の書き方などを身に付けることができ、表現に広がりが出るであろう。相互の立場で書いた作品を交流したのち、さらにもう一度書くことによって、事実に対する自分の思いが深まり、ひいては物事を別の角度から見ることの大切さを学べるであろうと考えた。

以上のことから、国語科「Ｂ書くこと」領域の指導において、図表や写真を用い、立場を変えて書く活動を取り入れることは、自分の思いを書く力を高めるために有効であると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

小学校国語科の「Ｂ書くこと」領域において、自分の思いを書く力を高めるために、図表や写真を用い、立場を変えて書く活動を取り入れることの有効性を明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

1　記述する段階（前半）において、図表や写真を用いて自分の思いとは異なる立場で書く活動を取り入れることによって、新たな視点を得ることができ、自分の思いと比べながら書くことができるであろう。

2　記述する段階（後半）において、立場を変え、図表や写真を用いて自分の思いを書く活動を取り入れることによって、異なる立場を意識しながら思いを組み立て、自分の思いを明らかにしながら書くことができるであろう。

3　推敲する段階において、図表や写真を用いて思いをまとめて書く活動を取り入れることによって思いを深めて書くことにつながり、自分の思いを書く力を高めることができるであろう。

Ⅳ　研究の内容

1　自分の思いを書く力を高めることについて

本研究における「自分の思い」とは、ある事実について、自分の内面に起きた感情や気持ち、考えのことである。人はだれでも自分の思いをもったときに、その言動が主体的なものに変わる。自分の思いをもつことが、主体的な学習の出発点になる。

その思いを「書くこと」で相手に伝えるためには、文章表現力が必要である。書くためには、書くに値するテーマ、テーマに対する興味・関心、文章にするための知識や技能など、様々なものが必要である。しかし、よいテーマや情報を得ても、それを基に自分の思いを書くことが十分にできない姿が見られることがある。これは、何を書いたらよいか（書く内容）と、どう書いたらよいか（書く方法）という二つの要素が満たされていないからであると考える。

書く内容については、十分な準備もせずに感想文や意見文を書かせると、苦手意識のある児童はなかなか鉛筆が進まないと予想される。そのような児童が書くことへの苦手意識をなくすためには、相手や目的を意識することが大切である。例えば、書くための材料を集めて情報をみんなで共有すること、書いたあとの活用法を決め書くことの見通しを立てることなどが考えられる。

書く方法については、目指す言語能力に適した形式を与えることで書きやすくなると考える。例えば案内文、紹介文、新聞など、書く内容がすでに決まっている実用的な文章が適している。

以上のことから、自分の思いを書く力を高めるには、書く内容と書く方法の両面に対して支援を行うことが大切であると考える。

具体的には、以下のような姿が見られたときに自分の思いを書く力が高められると考える。

○　自分の思いを支える考えを見付け出している姿
○　自分の思いを明確に伝えるように構成している姿
○　見出しに自分の思いを端的に表現している姿
○　図表や写真を根拠にして自分の思いを記述している姿
○　交流によって深まった自分の思いを記述している姿

2　図表や写真を用い、立場を変えて書く活動について

(1)　図表や写真を用いることについて

「図表や写真」とは、図、絵、グラフ、表、写真などをいう。日常生活に目を向けると、われわれが受け取る情報の多くは、新聞や雑誌、Webページなど、文章に図表や写真が混在したものである。図表や写真には、書き手の言いたいことを補説する役割がある。自分の思いに沿った図表や写真を配置したり、図表や写真に適切なキャプション（簡単な説明）を付けたりすることにより、自分の思いをよりよく伝えることができる。また、図表や写真を手掛かりにして、自分の思いを相手

によりよく伝えられる効果も期待できる。

国語科は「国語を適切に表現し正確に理解する能力」を育成する教科である。文章の読解や心情表現の指導だけではなく、情報を収集、判断、表現していく能力も求められている。そのためにも文章の中に図表や写真を用いることは重要であると考える。

以上のことから、自分の思いを書いて相手に伝えるには、文章に加えて図表や写真の活用が、効果的であると考える。

(2)　立場を変えて書く活動について

立場を変えて書く活動は、「相互の立場から書く活動」「思いをまとめて書く活動」の二つの活動に分かれる。

①　相互の立場から書く活動

相互の立場から書くとは、一つの事実について、まず自分の思いとは異なる立場から書いたのちに自分の立場から思いを書くことである。

先に自分の立場から思いを書いた場合、その根拠は自分の思い付きや好みなどで書くことが予想され、異なる考えの相手に自分の思いを分かってもらうことは難しくなると考える。

本研究では、あえて先に自分の思いとは異なる立場から書くことによって、相手の立場に立って考えることの大切さを身に付けられると考えた。そのあと自分の立場から思いを書くときに、児童は相手の立場を意識して、思いをよりよく伝えることができるであろう。

北川達夫氏は、「意見の異なる相手とコミュニケーションをはかる場合、自分の意見を理論構成する前に、相手の意見を理論構成してみる」ことを勧めている。「本心とは異なる意見の理論構成はかなり難しい。それこそ、本気で相手の立場になって考えてみないかぎり、なかなか意見の理由を思いつかないのです」と述べている。

この活動を取り入れることにより、物事を別の角度から見ることにつながり、読み手に伝えるための表現にも広がりが出て、自分の思いを書く力が高まるであろうと考えた。

②　思いをまとめて書く活動について

「思いをまとめて書く活動」とは、相互の立場から書いたのち、自他の作品を交流すること（推敲）によって深まった自分の思いを、もう一度端的に書く活動を取り入れてまとめることである。相互の立場から書く、友達のよい表現にふれる、友達からの助言を受けるなどののち、端的にまとめ直すことにより、事実に対してはじめは浅かった自分の思いが、より明確になり思いを深めることにつながると考えた。この活動を取り入れることによって、児童の思考は、「自分の考えをさらに強める」「異なる立場のよさを自分の考えの中に取り入れる」、または「異なる立場に自分の考えを変える」といった変化をすると考えられる。

③　具体的な活動の内容

本研究で児童が書くのは新聞形式である。

「相互の立場から書く活動」はＡ４判横長縦書きで、図１のように右側に自分の思いと異なる立場から書き、左側には自分の立場から思いを書く。相互の立場で書いた内容が一目で分かるため比較しやすい。また、自分の思いを書くのに適切な長さであり、書くことに苦手意識のある児童も受け入れやすい。図表や写真、大見出し、小見出しの数も自分の思いを書いた文章を補うのに適切であると考える。

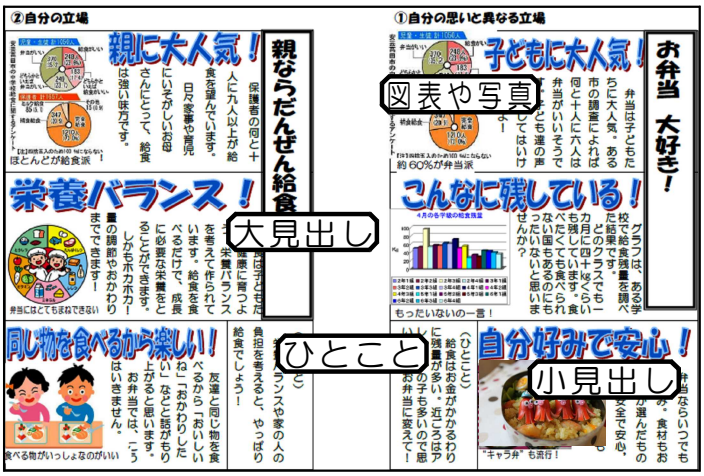

図１　児童に提示した作品例

具体的には、以下の点に留意しなが

ら作成する。

○　思いを端的に表現する大見出しを書く
○　三段構成で各段に小見出しと図表や写真を配置する
○　書きたい文章との関連が深い図表や写真を三つ選ぶ
○　図表や写真にはキャプション（簡単な説明）を付ける
○　「ひとこと」の欄にその立場での自分の思いを書く

自分の思いと異なる立場からも円滑に書けるよう、事前にテーマに関する調べ学習や読書等を行ったのち、相互の立場の考えやその理由を共有する時間を取り、テーマに対する情報を蓄積する。

「思いをまとめて書く活動」は、図２のようにＡ４判の四分の一の大きさで横長縦書きとする。スペースと文の量を限定することにより、本当に相手に伝えたいことだけにしぼって書けると考える。

図２　児童に提示した作品例

活動のテーマについては、「日常の学習や生活に関連があり児童の興味・関心をひくと思われる話題」（意欲的に取り組めるように）「相反する二つの考えに分かれやすい話題」（二つに焦点化するように）「相反する二つの考え方が、ほぼ半数に分かれると予想される話題」（どちらの根拠も説得力があるように）の、三つの視点で設定する。

具体的には、以下のような例が考えられる。

○　賛成の立場と反対の立場（Ａ小学校は自転車通学を認めるべきである　等）
○　善の立場と悪の立場（桃太郎の立場と鬼の立場から思いを書く　等）
○　プラス思考の立場とマイナス思考の立場（宿題を廃止するべきである　等）
○　自分の立場と他人の立場（給食がいいかお弁当がいいか　等）
○　好きな立場と嫌いな立場（犬は好きか嫌いか　等）
○　二つの事物のうち一つを選んだ立場（レジャーに行くなら海か山か　等）

３　研究構想図

Ⅴ　研究の計画と方法

1　実践計画

対　　象	研究協力校　小学校第５学年　36名
期　　間	平成24年10月３日～10月30日　８時間
単 元 名	情報の受け止め方を考えよう「新聞の読み方を考える」

2　抽出児童

A	自分の思いをもつことはできるが、文章にまとめて書き表すのに他の児童よりも時間がかかる傾向がある。図表や写真を用い、立場を変えて書く活動を取り入れることによって、自信をもって自分の思いを書く力を高めたい。
B	自分の思いを支える根拠を挙げて書くことができるが、その根拠に自信をもてない面が見受けられる。相互の立場で図表や写真を根拠に自分の思いを書く活動を取り入れることや、交流後の「思いをまとめて書く活動」によって、視野を広げさせ、自分の思いを書く力を高めたい。

3　検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し１	図表や写真を用いて自分の思いとは異なる立場で書く活動を取り入れたことは、新たな視点を得ることができ、自分の思いと比べながら書くのに有効であったか。	○新聞の記述内容 ○自己評価の分析 ○単元末振り返り
見通し２	立場を変え、図表や写真を用いて自分の思いを書く活動を取り入れたことは、異なる立場を意識しながら思いを組み立て、自分の思いを明らかにしながら書くのに有効であったか。	○新聞の記述内容 ○自己評価の分析 ○単元末振り返り
見通し３	図表や写真を用いて思いをまとめて書く活動を取り入れたことは、思いを深めて書くことにつながり、自分の思いを書く力を高めるのに有効であったか。	○新聞の記述内容 ○自己評価・相互評価の分析 ○単元末振り返り

4　単元の目標及び評価規準

(1)　単元の目標

記事の違いを読み取ると共に、図表や写真を用い自分の思いを記した新聞を書くことができる。

(2)　評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	言語についての知識･理解･技能
テーマに対して自分の考えをもち、図表や写真を用い、立場を変えて文章を書こうとしている。	思いを端的に表す図表や写真、キャプション、見出し等を用いて、立場を変えて相手によりよく伝わるような文章を書くことができる。	自分の思いをよりよく伝えるために、適切な図表や写真や言葉を使ったり、文のつながりや文章構成を工夫したりすることができる。

5　指導計画

過程	時	学習活動	研究上の手だて
つかむ	1	○学習の見通しをもつ。 ・「新聞の読み方を考える」を音読し、新聞記事に関心をもつ。 ・一般紙とスポーツ紙の新聞記事を読み比べる。 ・サンプル作品を見て、一つのテーマについて相互の立場から新聞を作成することを知る。	○学習の見通しがもてるよう、単元を貫く言語活動として図表や写真を用いて相互の立場から新聞を書く活動に取り組むことを知らせる。 ○これから書いていくもののイメージがもてるよう、サンプル作品を提示する。
	2	○筆者の主張を読み取る。 ・一般紙とスポーツ新聞の違いをまとめる。	○これから取り組む新聞作りに生かせるよう、新聞の見出しや記事には作り手の意図が表れていることをおさえる。

		・全国版と地域版、地方紙同士の記事や見出しの違いとその理由を読み取る。		
追究する	3	○テーマについて調べる。 ・図表や写真を用い、立場を変えて書く新聞の体裁等について理解する。 ・テーマを決め、テーマについて調べる(図書･Webページ等)。		○どの児童も円滑に書くことができるよう、教師が参考図書や参考Webページを準備しておき、適切に助言する。 ○児童の考えがほぼ半数に分かれるようなテーマになるよう、あらかじめ教師が用意したものをいくつか提示し、その中から決める。
	4	○情報を共有し書き始める。 ・自分の立場を決める。 ・その理由や根拠を出し合う ・自分の思いと異なる立場から書く。	記述する段階(前半)	○自分の思いと異なる立場から書けるよう、全体の場で互いの考えやその理由を出し共有する時間を取る。 ○自分の思いと比べられるよう、三つの根拠を挙げて書くことを伝える。
	5	○新聞を書く。 ・自分の立場から書く。	記述する段階(後半)	○自分の思いを明らかにできるよう、自分の思いと異なる立場の考えも取り入れるなど意識して書くよう助言する。
	6	○班で交流し、思いをまとめて書く。 ・自己評価したのち班で相互評価する。 ・自他の作品を見比べ交流する。 ・交流を生かし、自分の思いを限られたスペースに端的に書く。	推敲する段階	○自分の作品が推敲できるよう「自分の思いを書く力」などの観点に基づいて自己評価する時間を取る。 ○交流で多くの視点が得られるよう、班で作品を読み合い、自己評価と同じ観点に基づいて相互評価する。教師は班の中に相互の立場の児童がいるように配慮する。 ○次の活動の参考にできるよう、班内でコメントやアドバイスを付箋に書き、作品に貼る交流の時間を取る。
	7	○新聞を仕上げる。 ・「思いをまとめて書く」新聞を完成させる。		○自分の思いを書く力が高められるよう、交流で得た多くの視点から適切なものを選択し、自分の思いをまとめ直すことを伝える。
まとめる	8	○クラス間で交流し、単元全体を振り返る。 ・隣のクラスの新聞を鑑賞し「自分の思いを書けている」などの観点に基づいて投票する。 ・単元全体を振り返る。		○友達の文章のよさや参考になった点などについて気付けるよう、観点に基づき良く書けた新聞に投票するよう助言する。 ○「自分の思いを書く力」や「図表や写真を活用する力」の変容を書く時間を取る。

Ⅵ　研究の結果と考察

1　自分の思いとは異なる立場で書く活動を取り入れたことの有効性について

(1)　結果

「○○小学校は自転車通学を認めるべきである」というテーマを設定し、テーマに対する調べ学習と情報の共有を行ったのち、用紙の右側半分に自分の思いと異なる立場で書く活動を行った。

児童間で書くことに対しての意欲や能力の差が大きいという実態に対応するため、新聞の書式は無地のもの、マス目の幅が広いもの、マス目の幅が狭いものを用意して一つ選ばせた。また、作業の効率化を図るため、使用する図表や写真は、図３のように適切と思われるもの五種類をあらかじめカラー印刷してシールにし、その中から三種類を選んで貼ることとした。なお、同じ図表や写真を、次に行

図３　使用した図表や写真

う「自分の思いを書く活動」でも使えるよう、二枚ずつ用意した。自分の思いと異なる立場にもかかわらず、文章化に時間のかかる児童は見られたものの、全員が自分の思いと比べながら新聞をまとめることができた。

抽出児童Ａは自転車通学に反対の立場であるが、ここでは自分の思いと異なる賛成の立場から書いた。そこで、図４のように自転車検定カードの図表を用い小見出しに「安全な自転車通学」と書いた。

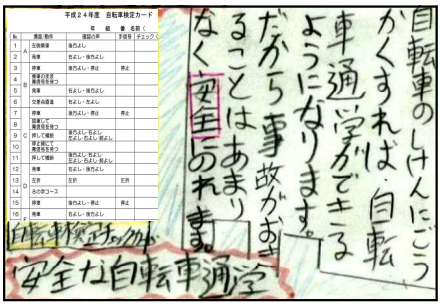

図４　抽出児童Ａの新聞（一部）

抽出児童Ｂもここでは賛成の立場から書いた。「朝のきもちいい風で目が覚める」という小見出しで書こうとしたとき、関連の深い図表や写真が見付からなかったため、図５のように自分でイラストを描いた。

図５　抽出児童Ｂの新聞（一部）

活動後の振り返りでは「自分の思いと反対の立場になりきって書くことができたか」という項目に学級の約97％の児童が「大変よくできた」もしくは「まあまあできた」と答えていた。

(2)　考察

以下のような要因から全員が自分の思いと比べながら新聞を書くことができたと考える。

まず、「○○小学校は自転車通学を認めるべきである」というテーマが児童の興味・関心を引く魅力あるものであったことが挙げられる。自分の思いと比べることで時間短縮や安全性、駐輪場の確保など、異なる立場でありながら、新聞を書くための内容をいくつも思い付くことができた。

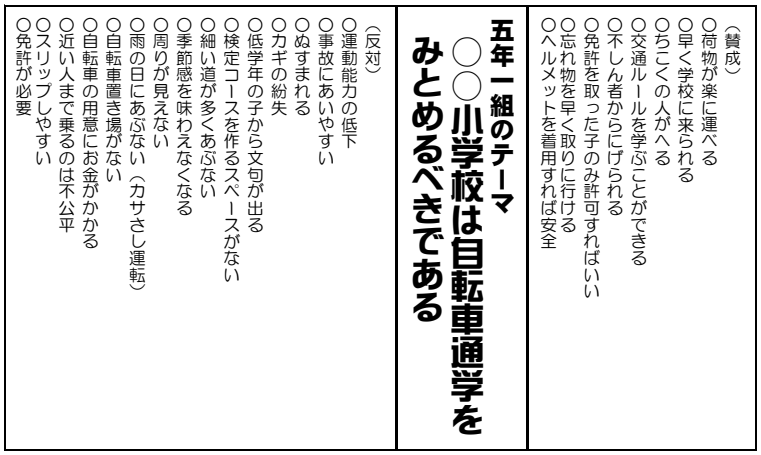

図６　共有情報を教室に掲示

次に、テーマに対する調べ学習や情報共有の時間を取ったことが挙げられる。これにより異なる立場の考えや理由にも触れることができた。共有情報は、いつでも参照できるよう、図６のように教師が模造紙に書き単元の学習期間中は教室内に掲示したため、自分の思いと比べて書くための一助となった。抽出児童Ａは、異なる立場から文章を書こうにも内容がなかなか思い付かなかった。そこで共有情報の「免許を取った子のみ許可すればいい」を参照し、「試験に合格すれば自転車通学ができるようになります」と新たな根拠を得た。抽出児童Ｂは、自分の思いと関連の深い図表や写真が見当たらなかった。そのため自分でイラストを描き「朝の気持ちいい風で目が覚める」という共有情報にない新たな根拠と共に新聞をまとめた。

そして、図表や写真の存在が書くためのきっかけになったことが挙げられる。五種類の図表や写真は、その立場に合ったキャプションを付けることで、どちらの立場でも使えるようなものを選んである。書くことに苦手意識のある児童にとっては、先に図表や写真のシールを三つ貼ることで、書く文の量が少なくなると同時に、書くための手掛かりが得られる。書く内容が思い付かない児童も、図表や写真を手掛かりに、自分の思いと比べながら内容を考えていた。一方、書くことの能力が高い児童にとっては、書く内容が次々と思い付くため、自分の思いと関連が深い図表や写真が見付からないことがある。そこで、図５に示す抽出児童Ｂのようにイメージを膨らませ自分で図表を描いている姿が見られた。

図７に示す児童の感想を見ると、異なる立場で書くことに戸惑いを感じながらも、相手の考えを知り、自分の思いと比べようとしていることが分かる。

以上のことから、自分の思いとは異なる立場で書く活動を取り入れたことは、新たな視点を得ることができ、図表や写真を用いて自分の思いと比べながら書くのに有効であったと考える。

- 最初は反対の立場に慣れなかったけど慣れてきた。
- 異なる立場の気持ちも分かった。
- 危ないと最初は思ったけどちがう立場で書いてみたら便利と思った。
- 賛成の人は「楽に登校したいだけ」と思っていたが、色々な事を考えているのが分かって楽しかった。

図７　児童の感想（一部）

２　自分の思いを書く活動を取り入れたことの有効性について

(1)　結果

上記の活動に続き、立場を変え、新聞用紙の左側半分に自分の思いを書く活動を行った。先の活動経験を生かし、記事の文章の中に異なる立場の内容を取り入れた児童が75％見られるなど、異なる立場を意識して書いていた。

抽出児童Ｂは、図８のような三つの根拠を挙げて書いたが、いずれも「このようなルールが守れるのでしょうか」「遊ぶ場所が多い方がいいのではないでしょうか」「どうなると思います？」と、自分の思いと異なる賛成の立場に対し問いかける形で終わっていた。

抽出児童Ａは、図９右のように先の活動で自転車通学に賛成の立場から自転車置き場の写真を使用した。今回の活動では、同左のように同じ写真を自転車通学に反対の立場から使用した。

活動後の振り返りでは、「自分の思いと異なる立場の人のことも考えて書くことができたか」という項目に、学級の約92％の児童が「大変よくできた」もしくは「まあまあできた」と答えていた。

おっとあぶない。左の写真は自転車に乗っている男の子がとびだしをしている写真ですね。
ルールを守らないとこのようになってしまいます。
自転車通学に賛成の人はこのようなルールが守れるのでしょうか。

自転車通学の費用、どれだけかかると思います。おき場が作れるとしても遊ぶ場所が少なくなります。
費用・場所をとって遊ぶ場所が少なくなるより、歩いて学校へ来て遊ぶ場所が多い方がいいのではないで

自転車検定、うからない人もいるのじゃないですか。もしも、うからない人がいたら、差別と思う人もいるかもしれません。
その場合、どうなると思います？

図８　抽出児童Ｂの文面

(2)　考察

以下のような要因から自分の思いを明らかにしながら新聞を書くことができたと考える。

まず、既に右側にある「自分の思いと異なる立場」から書いた新聞を参照しながら書けたことが挙げられる。これは相互の立場から書いた文章が対になっている形式のためである。75％の児童が異なる立場の考えを取り入れたのは、先の活動経験から異なる立場のよさを知り、異なる立場の人にも自分の思いを分かってほしい気持ちからであると考える。抽出児童Ｂは、学級の約半数を占める異なる立場の児童に対して、自分の立場に興味と理解を示してほしいという気持ちから、問いかける形をとったのである。

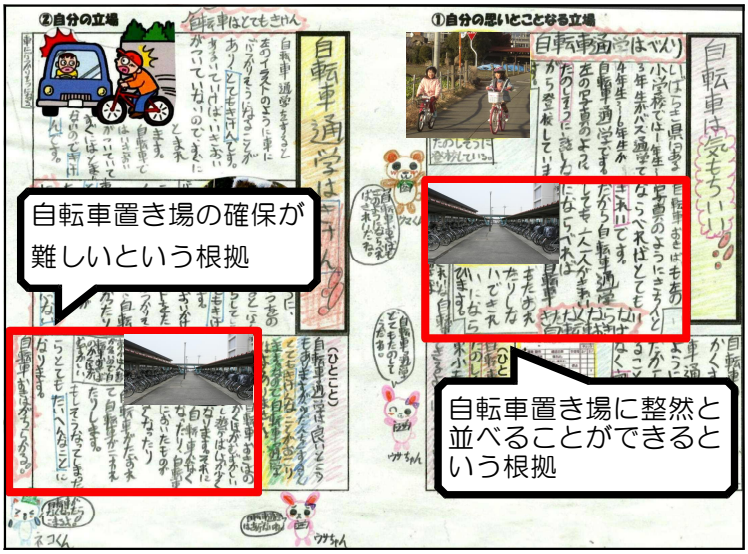

図９　相互の立場で同じ写真を使用

次に、先の活動とは違い自分の思いが書けたことが挙げられる。児童の感想を見ると、「前回よりも書きやすかった」「自分の書きたかったことを書けた」などと書いた児童が多かった。抽出児童Ａの大見出しや小見出しを見ても、自分の思いが端的に表現できている。温めていた自分の思いを文章化することで当初は漠然としていた自分の思いが徐々に明らかになってきたことが分かる。

そして、図表や写真の活用が挙げられる。抽出児童Ａは単元末の振り返りで、「図表や写真を貼って自分の思いが書けたので、図に合ったことが書けてとても力が付いた」と書いている。これは図表や写真を手掛かりに、それぞれの立場に合ったキャプションや文章を考えていたことから、図表や写真を根拠にして自分の思いを記述する力が向上したと考える。

以上のことから、図表や写真を用いて自分の思いを書く活動を取り入れたことは、自分の思いを明らかにしながら書くのに有効であったと考える。

３　思いをまとめて書く活動を取り入れたことの有効性について

(1)　結果

活動の前に相互の立場で書いた新聞を交流する時間を取った。これは、グループで新聞を読み合い、図10に示す観点に基づいて相互評価したのち、お互いにコメントやアドバイスを書いた付箋を貼るというものである。

その後、深まった自分の思いをＡ４判の四分の一の用紙（ 200字程度）にもう一度端的に書く活動を行った。相互の立場で書いた活動や交流活動を生かすこと、相互評価で不十分だった部分を克服すること、本当に相手に伝えたいことだけにしぼって書くこと等を話し、納得した上で書くようにした。

抽出児童Ａは、図11傍線部のように、家族に聞いた結果を新たな根拠として書き加えている。

抽出児童Ｂは、図12傍線部のように異なる立場に触れた記述をして結んでいる。

活動後の振り返りでは、「自分の一番言いたいことを短く書くことができたか」という項目に、学級の約97％の児童が「大変よくできた」もしくは「まあまあできた」と答えていた。

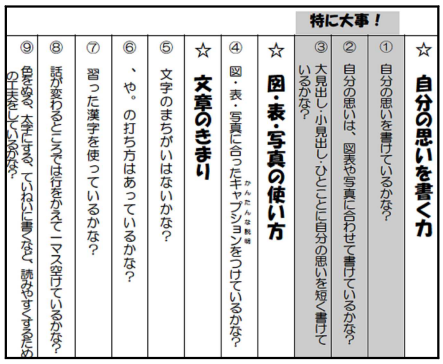
☆自分の思いを書く力
①自分の思いを書けているかな？
②自分の思いは、図表や写真に合わせて書けているかな？
特に大事！
③大見出し・小見出し・ひとことに自分の思いを短く書けているかな？
☆図・表・写真の使い方
④図・表・写真に合ったキャプション（かんたんな説明）をつけているかな？
☆文章のきまり
⑤文字のまちがいはないかな？
⑥、や。の打ち方はあっているかな？
⑦習った漢字を使っているかな？
⑧話が変わるところでは行をかえてニマス空けているかな？
⑨色をぬる、太字にする、ていねいに書くなど、読みやすくするための工夫をしているかな？

図10　相互評価の観点

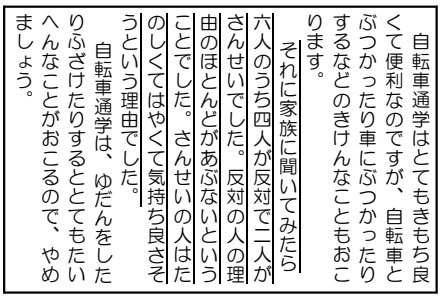
自転車通学はとてもきもち良くて便利なのですが、自転車とぶつかったり車にぶつかったりするなどのきけんなこともおこります。
それに家族に聞いてみたら六人のうち四人が反対で二人がさんせいでした。反対の人の理由のほとんどがあぶないということでした。さんせいの人はたのしくてはやくて気持ち良さそうという理由でした。
自転車通学は、ゆだんをしたりふざけたりするととてもたいへんなことがおこるので、やめましょう。

図11　抽出児童Ａの文面

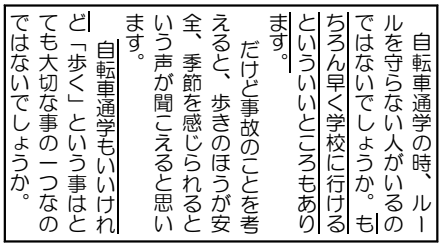
自転車通学の時、ルールを守らない人がいるのではないでしょうか。もちろん早く学校に行けるといういいところもあります。
だけど事故のことを考えると、歩きのほうが安全、季節を感じられるという声が聞こえると思います。
自転車通学もいいけれど「歩く」という事はとても大切な事の一つなのではないでしょうか。

図12　抽出児童Ｂの文面

(2)　考察

以下のような分析から、思いを深めて書くことができたと考える。

「相互の立場で書く活動」からの思考の変化を、図13凡例のように三つに分類した。「自分の考えを強める」は、根拠の強化、統合、新設が見られた場合、「異なる立場のよさを取り入れる」は、考えの取り入れ、折衷が見られた場合、「異なる立場に考えを変える」は、考えの変化が見られた場合と定義した。

67％の児童は自分の考えを強めている。これは、相互評価や交流から自説に自信をもち、交流で得た新たな根拠を加えて自説を強化し、自分の思いを深めたことが考えられる。抽出児童Ａは、先の「自分の思いを書く活動」では共有情報に挙げられた根拠しか書けなかった。しかし、今回の活動では「家族に聞いた結果」という新たな根拠を加え

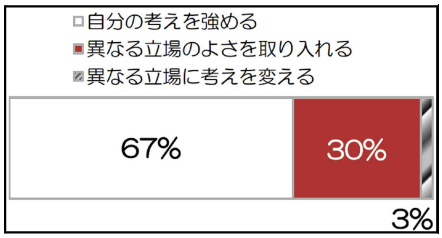

図13　思考の変化

ることができた。これは自分の文章を比べることで自説の裏付けを補強する必要に気付いたものであり、三回の新聞作りの繰り返しにより自分の思いが深まっていると考える。

30%の児童は異なる立場のよさを自分の考えの中に取り入れている。抽出児童Ｂは、先の「自分の思いを書く活動」では異なる立場に対し問いかける書き振りだった。しかし今回の活動では、「自転車通学もいいけれど」のように異なる立場に触れた記述ができた。他にも「相互の立場で書く活動」のときに比べて一方的な主張ではなくなった児童が多く見られた。これは、当初は思いつきや好みなどで一方的だった主張が、異なる立場の考えに触れ、その考えを理解した上で異なる立場の児童に対し自説を唱えたものになっており、交流により自分の思いが深まっていると考える。

一名の児童のみ、賛成の立場から反対の立場に考えを変えた。「みんなの意見を聞いたら二列になったりヘルメットをかぶらない人やとび出す人などがいるのでやっぱり反対だなと思いました」と新聞に書いている。これは、当初は思い付きや好みなどで浅かった自分の思いが、異なる立場の考えに触れ相互の立場の考えを理解することで変化したものであり、公正な目でよりよい考えを選択していることから、交流により自分の思いが深まっていると考える。

単元の学習後、調査問題としてある事象に対する自分の思いを書かせたところ、図14のような結果が得られた。問題の特性から、評価基準は２頁に示す「自分の思いを書く力」を高められた姿のうち「自分の思いを支える考えを見付け出している姿」「自分の思いを明確に伝えるように構成している姿」を中心にした。学習前、自分の思いを書けた児童は44%であったが、学習後には72%に増え過半数となった。

以上のことから、図表や写真を用いて思いをまとめて書く活動を取り入れたことは、自分の思いを書く力を高めるのに有効であったと考える。

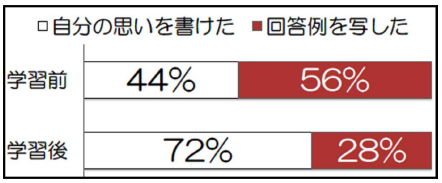

図14　自分の思いを書く力

Ⅵ　研究のまとめ

１　成果

○　自分の思いと異なる立場から書いたのちに自分の立場から書き、交流活動を経て自分の思いを端的に書く活動を行うことによって、異なる立場の考えに理解を示すことができ、物事に対する自分の思いを深めて書くことができた。

○　自分の思いを明確にもち、様々な立場に立って、図表や写真を用いた新聞形式にまとめる活動は国語科における他の内容や他教科の学習場面などにも活用できると考える。

２　課題

○　立場を決めかねて結論が曖昧な文章を書く児童も見られた。自分の思いを深めるためには、学習の見通しをより明確に示すと共に、迷った場合にも立場を決断して書くように働きかけることが大切である。

○　自分の思いを書く力をより高めるためには、情報共有や調べ活動など自分の思いをもつための手だてや、観点を焦点化した交流が大切である。さらに、国語科における他の内容や他教科の学習場面などにおいても、図表や写真を用いた魅力的な題材を教育課程の中へ計画的に位置付けることで、書く力を効果的に伸ばすことができると考える。

＜参考文献＞

・北川達夫、フィンランド・メソッド普及会　著　『フィンランド・メソッド入門』　　経済界(2005)